

特別企画：焼酎メーカー売上高ランキング（2021 年）

上位 50 社の売上高合計、2005 年以降の最低を記録
～ 霧島酒造が 10 年連続でトップ ～

はじめに

国税庁が発表した 2020 年度の国内酒類消費量は、約 782 万 7600 キロリットルで、前年度比 3.7%減少した。減少するのは 5 年連続で 800 万キロリットルを割り込んだ。酒離れや消費者嗜好の多様化等により厳しい状況に立たされるなか、新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）感染拡大の影響で外食産業向けの販売が激減し、酒類業界全体が打撃を受けている。そんななか、リキュール（前年度比 6.7%増）やスピリッツ（同 15.4%増）、甘味果実酒（同 8.3%増）は、缶チューハイや缶カクテルなどの RTD（Ready To Drink）飲料市場の拡大やコロナ禍による“巣ごもり需要”もあって、それぞれ消費量や伸び率は増加傾向にある。

一方、焼酎消費量は前年度比 4.1%減の約 72 万 4900 キロリットルで、さかのぼって確認できる 2007 年度（100 万 4700 キロリットル）以降、3 年連続で 80 万キロリットルを割り込んだ。焼酎市場が年々減少傾向で推移しているなか、消費者のニーズにマッチした商品の開発等が今後の重要なポイントとなろう。

帝国データバンク福岡支店では、売上高に占める焼酎・泡盛の割合が 5 割以上となった酒類製造業者（焼酎・泡盛以外の事業で計上した売上高も含む）を『焼酎メーカー』と定義。企業概要ファイル「COSMOS2」（約 147 万社収録）より、全国の焼酎メーカーの 2021 年（1 月期～12 月期）売上高をランキング形式により抽出し、上位 50 社の売上高や利益動向などについて集計した。なお、本調査は 2021 年 8 月に続く 19 回目。

調査結果（要旨）

1. 2021 年の売上高ランキングは、「黒霧島」で知られる霧島酒造（株）（宮崎県都城市）が 10 年連続でトップ。2 位は、「いいちこ」ブランドを主力とする三和酒類（株）（大分県宇佐市）。3 位にはオエノンホールディングス（株）（東京都墨田区）を持株会社とする「オエノングループ」の焼酎事業が入った
2. 上位 50 社の売上高合計は 2793 億 4600 万円と、前年比 4.0%減少した。なお、「オエノングループ」の売上高を除外し 51 位の売上高を加算して計算した調整後の売上高合計は前年比 4.2%減の 2414 億 9700 万円と、比較可能な 2005 年以降では過去最低を記録した
3. 上位 50 社のうち「減収」企業は 39 社と、2003 年の調査以降、最も多かった。売上高規模別にみると、巣ごもり需要分をカバーできず、全ての規模で減収が上回った
4. 税引き後当期純利益が判明した 38 社のうち、「黒字」企業は 35 社
5. 都道府県別にみると、社数は「鹿児島県」が 22 社、売上高合計は「宮崎県」が 808 億 2000 万円と、それぞれトップとなった

1. 売上高ランキング

1 位 霧島酒造 599 億 7800 万円（前年比 4.1%減）

全国焼酎メーカーの2021年（1月期～12月期）の売上高ランキングは、10年連続^{※1}で霧島酒造（株）（宮崎県都城市）がトップとなった。「黒霧島」を主体に、「白霧島」「赤霧島」などを展開している。期中は主力商品「黒霧島」の安定した出荷に加え、「茜霧島」の通年販売を開始した。コロナ禍による巣ごもり需要から一般個人向けの販売は堅調だったものの、度重なる緊急事態宣言の発出から居酒屋やレストランなど業務用が伸びなかったことから、前年比4.1%減となった。

2 位 三和酒類 427 億 1000 万円（前年比 0.6%減）

三和酒類（株）（大分県宇佐市）は、10年連続で2位をキープ。“下町のナポレオン”の愛称で知られる「いいちこ」シリーズを主体に、地元大分県産の麦を使用した「西の星」ブランドを展開。関東・関西・中部などの大都市圏をはじめ、北米やアジアなど世界各国・地域に販路を構築している。コロナ禍以降は、外出自粛に伴う“巣ごもり需要”による「いいちこパック」等の紙パック商品や開けてすぐ飲める「RTD」タイプの販売増に加え、幅広い年代から人気の俳優を起用したテレビCM等で販促を進めた。一方、緊急事態宣言の発出などによる影響で外食産業向けの販売が激減分をカバーできず、前年比0.6%減となった。

3 位 オエノングループ 383 億 6900 万円（前年比 2.5%減）

オエノホールディングス（株）（東京都墨田区）では、傘下の合同酒精（株）（東京都墨田区）、福德長酒類（株）（千葉県松戸市）、秋田県醗酵工業（株）（秋田県湯沢市）の3社で焼酎を製造しており、本調査では同3社の焼酎事業の売上高〔有価証券報告書記載のセグメント別アイテム（主要製品）別の販売実績〕を集計対象としている。2008年以降、連結売上高に占める焼酎比率が5割を下回って集計対象外となっていたが、5割を上回った2017年から再度集計の対象となった。

しそ焼酎「鍛高譚（たんだかたん）」をはじめ、本格焼酎「博多の華」シリーズ、北海道において大きなシェアを握る甲類焼酎「ビッグマン」シリーズなど多様なラインナップを展開している。新型コロナの影響で外食産業向けの焼酎販売量が減少する一方、“巣ごもり需要”の拡大に伴う“家飲み”需要の増加で「博多の華」シリーズや、甲類乙類混和焼酎の「すごむぎ」「すごいも」シリーズが好調に推移した。また、期中に「鍛高譚」の公式Twitter

^{※1} 2015年4月に旧・霧島酒造（株）は霧島ホールディングス（株）に商号を変更したうえで持ち株会社となり、新たに設立した霧島酒造（株）（2014年3月設立）が酒類製造部門を継承した。順位は旧・霧島酒造（株）からの通算。

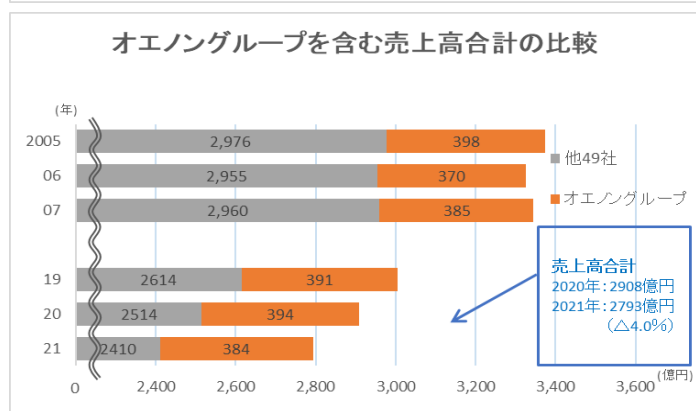
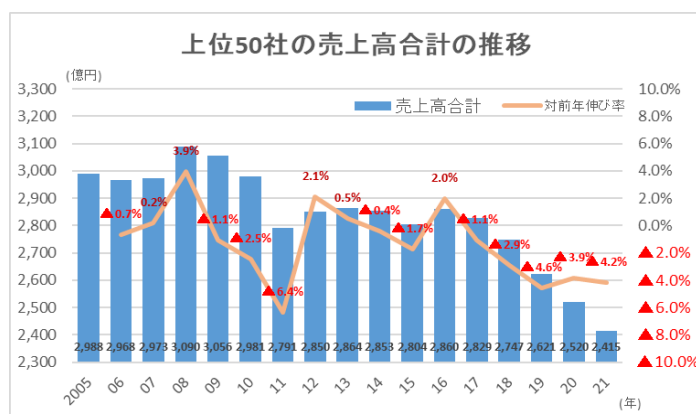
アカウントの開設を記念した販促キャンペーンを実施したほか、「日本ネーミング大賞 2021」の地域ソウルブランド部門で最優秀賞を受賞するなど、商品認知度の向上に努めた。しかし、度重なる時短営業やアルコール類の提供自粛もあって、前年比 2.5%減となった。

前回調査では、決算時期によってコロナ禍の影響をあまり受けていない企業が散見されたが、2021 年調査では大半の企業でコロナ禍の影響を受けており、上位 10 社中、6 社が減収となるなど、トップ 10 では減収企業が増収企業を上回った。なお、前年 6 位の濱田酒造(株) (鹿児島県) が 5 位に入り、初めてトップ 5 にランクインした。

2. 売上高合計推移

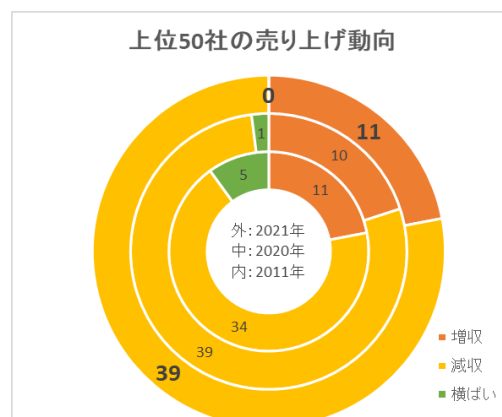
オエノングループは 2008 年（2009 年発表分）から 2016 年（2017 年発表分）まで焼酎事業の売上高が 50%を下回り集計対象外となっていた。このため、上位 50 社の売上高合計については、2009 年（2010 年発表分）の集計時に、2005 年までさかのぼって同グループの売上高を除外し、かつ、51 位企業の売上高を加算する調整を実施。以降、この調整後データを用いて売上高合計の推移をみてきたため、2021 年は 2016 年以前との単純比較ができない。

そこで、上記と同様の調整を行ったうえで売上高合計を比較すると、2021 年の上位 50 社（調整後）の売上高合計は、前年比 4.2%減の 2414 億 9700 万円と、5 年連続で減少した。ピーク時の 2008 年（3090 億 1300 万円）から 21.8%減少し、さかのぼって確認できる 2005 年以降の最低を記録した。消費者嗜好の変化によりウイスキーやワイン、リキュール類との競合が激化するなか、若者をはじめとする酒離れなどで苦戦が続いている。さらに、新型コロナによる影響で外食産業向けの販売減をカバーできず、減収を強いられた企業の増加などが影響したとみられる。なお、調整前の上位 50 社の売上高合計は 2793 億 4600 万円で、前年（2907 億 7900 万円）と比較すると 4.0%の減少となった。



3. 売り上げ動向

売り上げ動向をみると、「増収」企業が 11 社（前年 10 社）だったのに対し、「減収」が 39 社（同 39 社）にのぼり、8 割近い企業が減収を余儀なくされた。10 年前の 2011 年と比較しても「減収」が 5 社増となり、2003 年の調査以降、2020 年と並び最も減収企業が多くなった。2019 年 10 月からの消費税増税による販売量の低迷に加え、新型コロナの影響から減収企業が最も多くなっている。



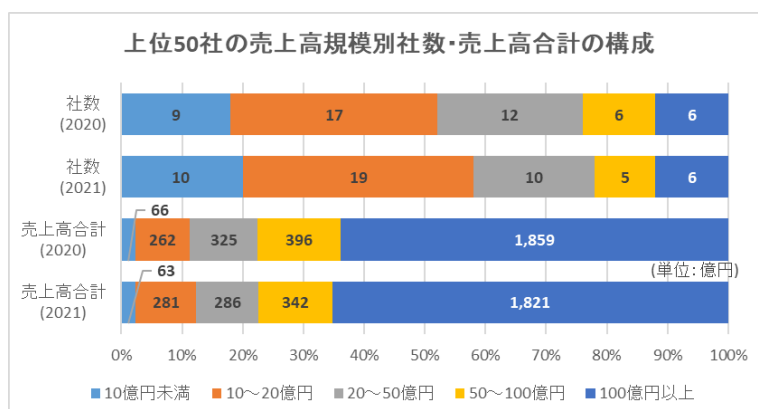
売上高規模別でみると、全ての規模で「減収」が「増収」を上回っているのは注目すべきポイントだ。前回調査では、「100 億円以上」の企業は、規模の大きい企業を中心に”巣ごもり需要”を取り込み増収に転じた企業が散見された。

しかし、今回調査では、行動制限の強い緊急事態宣言の発出に加え、長期化する時短営業や酒類提供自粛から、巣ごもり需要分をカバーできず、全ての規模で減収に転じた企業が上回った。

■ 上位50社の売上高規模別の売上動向

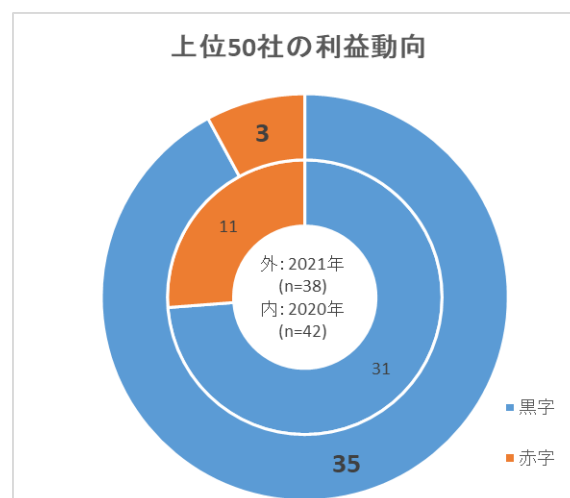
売上高規模	増収	減収	横ばい
10億円未満	1	9	0
10～20億円	4	15	0
20～50億円	2	8	0
50～100億円	2	3	0
100億円以上	2	4	0

売上高規模別の社数を前年と比較すると、「100 億円以上」の企業数に変動は見られないものの、「50 億～100 億円」が前年 1 社減、「20 億円～50 億円」が同 2 社減となった。売上高規模別の売上高合計を見ると、売上高規模を下げた企業の移動で、「10 億～20 億円」は増加したものの、売上高合計の約 65.2%を占める「100 億円以上」は前年比約 2.0%減の 1821 億円となるなど、大規模メーカーが苦戦している様子がうかがえた。



4. 利益の動向

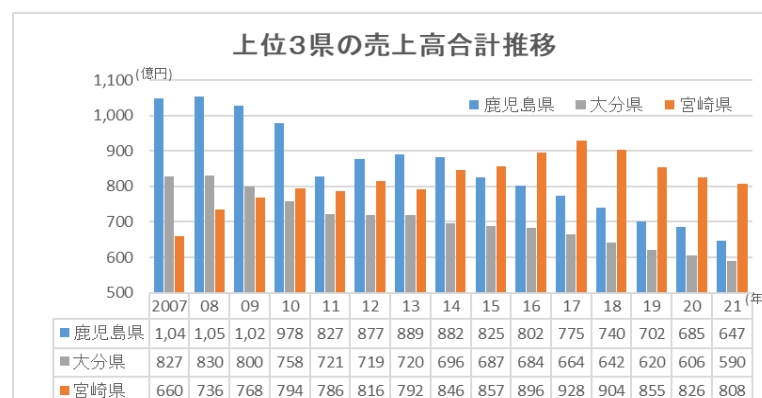
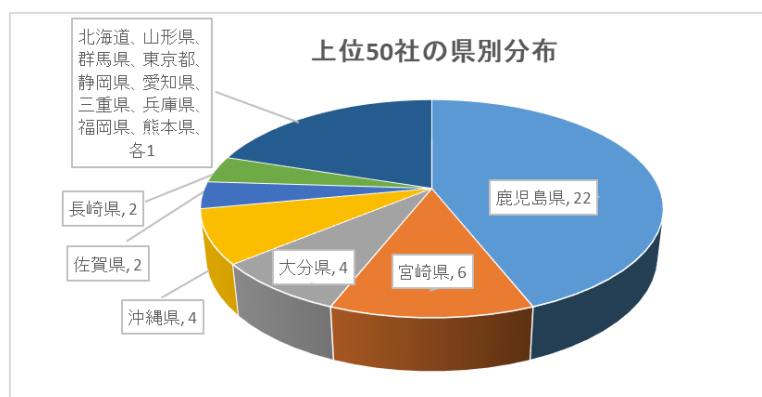
税引き後当期純利益が判明した 38 社のうち、「赤字」企業は 3 社で、構成比は 7.9%と 1 割に満たなかった一方、「黒字」企業は 35 社で、構成比は 9 割を超えた。売り上げが前年から減少した企業が 39 社を占めているものの、コロナ禍で出張費や車両費といった「販売費及び一般管理費」が削減できたことから、減収に関わらず「黒字」を確保した可能性が考えられる。



5. 都道府県別の分布

売上高上位 50 社を本社所在地別にみると、「鹿児島県」が前年から 1 社減の 22 社でトップ。以下、「宮崎県」が前年から 1 社増の 6 社、「大分県」と「沖縄県」が各 4 社で続いた。

他方、都道府県別の売上高合計は、「宮崎県」が 808 億 2000 万円 で 7 年連続のトップ。6 社中 2 社が増収となったものの、売上高 1 位の霧島酒造（株）含むほか 4 社が減収となったことで、前年比 2.1%減となった。2 位の「鹿児島県」は 22 社中 17 社が減収を余儀なくされ、同 5.5%減の 647 億 800 万円。3 位の「大分県」は麦焼酎を主力とする 4 社全てが減収で、同 2.6%減の 589 億 8000 万円と、4 年連続で 3 県とも減収となった。



まとめ

2021 年の焼酎メーカー売上高ランキングでは、霧島酒造（株）が 10 年連続で首位となり、同社の売上高は 10 年前の 2011 年（486 億 2600 万円）と比べて 1.23 倍に伸びている。しかし、上位 3 社全てが減収となったほか、上位 50 社の調整後の売上高合計はピーク時の 2008 年と比べて 21.8%減となり、前年比でも 4.2%減となっている。

酒類業界全体をみても、人口減少や少子高齢化により飲酒率の高い年齢層が減少しているうえ、健康志向の高まりによる飲酒の敬遠や若者の酒離れといった問題も抱えている。焼酎業界もそうした問題に加えて、ウイスキーを炭酸水（ソーダ）で割ったハイボールなどの需要の増加や“家飲み”に適した缶チューハイや缶カクテルなどの R T D・低アルコール飲料が続々と登場したことで、需要が低調に推移している。2021 年は新型コロナの影響により、外食産業向けの販売が激減したことに加え、インバウンド需要の喪失や国内観光客の減少に伴う土産品の販売低迷も続いた。また、サツマイモの実が腐る「基腐病」の拡大によるサツマイモの値上がりや原油・原材料価格の高騰もあって、焼酎全体としては伸び悩んでいる様子がうかがえた。

今回の調査では、緊急事態宣言の発出や酒類提供自粛等の影響で、飲食店といった外食産業を中心に事業拡大を進めている企業が、出荷数量の急激な減少によって減収となった企業が多い。小規模企業においても“巣ごもり需要”を取り込もうとしたものの、同業他社との競合で販売量が伸びなかったとする理由が見受けられた。しかし、コロナ禍にも関わらず「増収」企業は 11 社と、苦戦を強いられる企業が散見されるなか、着実に売り上げを伸ばしている企業がみられるのは注目すべきポイントだ。増収した企業は、ペットボトルや紙パック製品といった“家飲み”のニーズが高い新商品の投入や SNS の発信、海外市場の開拓が進んだことで、売り上げが伸びたとする理由が多かった。このことから SNS 等を活用した販促策は必須条件といえよう。

2022 年は新変異株「オミクロン株」の感染拡大により飲食店など業務用商品の需要低迷が続いているほか、原油価格高騰で包装資材や燃料費などのコスト上昇分を価格転嫁できない企業も多くみられる。とりわけ、長期化するコロナ禍で焼酎メーカーは更なる苦戦を強いられるなか、“家飲み”といった消費者のニーズにマッチした商品の開発とブランド価値向上が必要不可欠となるだろう。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク福岡支店情報部 担当：橋谷祐樹(分析)／笠維宏(表作成)

TEL：092-738-7779 FAX：092-738-8687

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

2021年 焼酎メーカー売上高ランキング 上位50社

(売上高は推定を含む)

順位	前年 順位	商号	所在地	主力ブランド(※は甲類)	主な原料	創業	設立	決算 月	売上高 (百万円)	前年比 売上高 伸び率
1	1	霧島酒造(株)	宮崎県都城市	黒霧島、白霧島、赤霧島、茜霧島	芋、麦	1916年	2014年3月	3	59,978	▲4.1%
2	2	三和酒類(株)	大分県宇佐市	いいち、西の星	麦	-	1958年9月	7	42,710	▲0.6%
3	3	オエナグループ	東京都墨田区	鍛高譚、博多の華、※ビッグマン	しそ、麦	-		12	38,369	▲2.5%
4	5	雲海酒造(株)	宮崎市	木挽BLUE、日向木挽、雲海、いいと	芋、ソバ、麦	-	1967年11月	9	14,338	2.1%
5	6	潤田酒造(株)	鹿児島県いちき串木野市	海童、薩摩富士、隠し蔵	芋、麦	1868年	1951年7月	6	13,749	6.6%
6	4	二階堂酒造(有)	大分県日出町	大分むぎ焼酎二階堂、吉四六	麦	1866年	1964年12月	6	13,000	▲7.8%
7	7	薩摩酒造(株)	鹿児島県枕崎市	さつま白波、黒白波、神の河	芋、麦	-	1936年6月	6	8,100	▲5.8%
8	8	若松酒造(株)	鹿児島県いちき串木野市	薩摩一、薩州麦、わか松	芋、麦	1719年	1953年9月	6	7,602	1.6%
9	9	本坊酒造(株)	鹿児島市	桜島、※宝星	芋、サトウキビ	1872年	1955年10月	6	6,693	6.7%
10	10	(株)宮崎本店	三重県四日市市	※キンミヤ焼酎	麦	1846年	1951年3月	9	6,145	▲0.4%
11	11	高峰酒造(株)	熊本県人吉市	白岳、白岳しろ	米	1900年	2001年11月	9	5,670	▲4.5%
12	12	美峰酒類(株)	群馬県高崎市	※司、上州むぎ焼酎	麦	1941年	2007年10月	9	4,550	▲9.7%
13	13	大口酒造(株)	鹿児島県伊佐市	伊佐錦、黒伊佐錦	芋	-	1970年8月	3	4,163	▲1.8%
14	15	神楽酒造(株)	宮崎県高千穂町	ひむかのくうま、天孫降臨、天照	麦、ソバ、芋	-	1954年11月	9	3,104	▲2.8%
15	14	鷹正宗(株)	福岡県久留米市	めちやうま、ごりよんさん、ばっかい	麦、芋、ソバ、米	-	1935年11月	12	2,908	▲11.6%
16	17	三岳酒造(株)	鹿児島県屋久島町	三岳	芋	-	1949年11月	9	2,590	0.8%
17	19	岩川醸造(株)	鹿児島県曾於市	おやとさあ、ハイカラさんの焼酎	芋、麦	1870年	1922年11月	3	2,450	▲3.9%
18	18	長島研醸(有)	鹿児島県長島町	さつま島美人	芋	-	1967年2月	9	2,317	▲9.2%
19	22	(株)都城酒造	宮崎県都城市	あなたにひとめぼれ、みやこんじょ	芋、麦	-	1956年2月	8	2,273	3.1%
20	21	札幌酒精工業(株)	札幌市	※サッポロソフト、喜多里	芋	-	1933年10月	9	2,183	▲2.7%
21	20	町田酒造(株)	鹿児島県龍郷町	里の曙	サトウキビ	-	1983年10月	3	2,020	▲10.8%
22	24	新平酒造(株)	鹿児島県大崎町	大金の露、金計佐	麦、芋	1904年	1988年6月	6	1,973	▲8.0%
23	26	宗政酒造(株)	佐賀県有田町	のんご、黒泉山	麦、芋	-	1985年5月	8	1,910	▲2.3%
24	25	田苑酒造(株)	鹿児島県薩摩川内市	田苑	麦、芋	1890年	1976年6月	6	1,900	▲4.3%
25	27	老松酒造(株)	大分県日田市	間魔、麴屋伝兵衛	麦、米	1789年	1973年12月	3	1,870	▲4.1%

2021年 焼酎メーカー売上高ランキング 上位50社

順位	前年 順位	商号	所在地	主カブランド(※は甲類)	主な原料	創業	設立	決算 月	売上高 (百万円)	前年比 売上高 伸び率
26	23	福井酒造(株)	愛知県豊橋市	※自遊自在、千年浪漫	酒粕	1912年	1948年10月	9	1,859	▲14.3%
27	28	(株)奄美大島開運酒造	鹿児島県奄美市	れんと、紅さんご	サトウキビ	1954年	1998年2月	9	1,768	▲5.4%
28	31	ヤエガキ酒造(株)	兵庫県姫路市	※甲（カブト）、あらし	米、麦	1666年	1962年12月	9	1,720	4.3%
29	29	(株)久米島の久米仙	沖縄県久米島町	久米島の久米仙	米	1949年	1993年7月	12	1,693	▲4.4%
30	33	八鹿酒造(株)	大分県九重町	銀座のすずめ、なしか！	麦	1864年	1949年11月	9	1,400	▲10.4%
31	30	(有)比嘉酒造	沖縄県読谷村	残波	米	1948年	1985年8月	2	1,340	▲18.8%
32	34	玄海酒造(株)	長崎県杬岐市	むぎ焼酎老岐、一玄國いき	麦	1900年	1985年2月	4	1,293	▲10.4%
33	38	萬世酒造(株)	鹿児島県南さつま市	薩摩萬世、蔵多山	芋	1899年	1985年11月	6	1,273	2.9%
34	41	まさひろ酒造(株)	沖縄県糸満市	島唄、海人	米	1883年	1965年8月	8	1,250	13.6%
35	37	小鹿酒造(株)	鹿児島県鹿屋市	小鹿	芋、麦	-	1971年8月	7	1,248	▲4.7%
36	39	佐藤酒造(有)	鹿児島県霧島市	佐藤、さつま	芋、麦	1906年	1952年4月	5	1,200	▲0.8%
36	40	(株)奄美大島にしかわ酒造	鹿児島県徳之島町	島のナボレオン	サトウキビ	-	1980年4月	9	1,200	▲0.2%
38	36	(資)光武酒造場	佐賀県鹿島市	魔界への誘い、舞こち	芋、麦	1688年	1955年10月	9	1,126	▲14.0%
39	35	白玉醸造(株)	鹿児島県錦江町	魔王、白玉の露	芋	1904年	1953年2月	3	1,100	▲21.4%
40	42	千寿酒造(株)	静岡県磐田市	千寿、稲泉	米	1902年	1983年11月	9	1,000	8.7%
41	43	さつま無双(株)	鹿児島市	さつま無双、くろはち	芋、麦	-	1970年10月	6	822	▲8.2%
42	44	(株)金龍	山形県酒田市	※爽、※爽金龍	サトウキビ	-	1950年4月	9	750	▲3.8%
42	44	大海酒造(株)	鹿児島県鹿屋市	さつま大海、ぐじらのボトル	芋	-	1975年6月	6	750	▲3.8%
44	46	(株)霧島町蒸留所	鹿児島県霧島市	明い農村	芋	-	1977年11月	9	620	▲4.6%
45	46	大隅酒造(株)	鹿児島県曾於市	大隅	芋、麦	-	2005年9月	12	600	▲11.8%
46	50	高千穂酒造(株)	宮崎県高千穂町	高千穂、わかむぎ	麦、米、ソバ	1902年	1976年2月	3	595	▲12.5%
47	49	若瀬酒造(株)	鹿児島県志布志市	さつま白若瀬、さつま黒若瀬	芋、米	-	1968年8月	7	570	▲5.0%
48	48	奄岐の蔵酒造(株)	長崎県杬岐市	奄岐っ娘、奄岐の島	麦	-	1984年5月	9	536	▲17.8%
48	-	新里酒造(株)	沖縄県うるま市	かりゆし、古酒琉球GOLD	米	1846年	1950年10月	6	536	5.5%
50	-	井上酒造(株)	宮崎県日南市	飢肥杉、櫻泉	芋、麦、デーツ	1894年	1976年10月	6	532	▲5.3%
参考 51	-	喜界島酒造(株)	鹿児島県喜界町	喜界島、キャプテンキッド	米、黒糖	-	1967年5月	9	520	0.0%
参考 51	-	請福酒造(有)	沖縄県石垣市	請福、請福ピンテーラ古酒	米	-	1966年11月	5	520	0.0%